

舗装工事での路面マーキング作業で使用する自走式ロボットを活用し、既設床版撤去ラインを自動でマーキングするすることで作業を効率化しました。

新設床版・壁高欄技術

耐震補強関連技術

機械技術

他リニューアル技術事例

お客様のメリット

- 通常の測量作業に比べ、作業人員を約80%、作業時間を約60% 削減できます。
- マーキング作業中に重機等との接触防止がはかれます。

技術の特徴（※記載内容に関して、西尾レントオール（株）からのカタログ、技術資料を引用しています。）

コンパクトかつ軽量で持ち運びが簡単

重量が約22kgで軽量のため、連絡車に積み込んでの現場間移動が可能です。人力による車からの荷下ろしや現場での持ち運びも容易に行えます。



マーキングまでの準備が簡単

GNSS受信機を備えた計測機器でマーキングの基準点を測量し、取得したデータをもとに線形データを作成します。タブレット端末内に線形データを読みませ、走行する方向や速度、線の間隔等を設定すれば、自動的にマーキングが開始されます。

市販のスプレー缶でのマーキング作業が可能

市販のスプレー缶（φ66mm 下向き噴射用）をロボットに装着すればマーキングが可能です。また、スプレー缶の代わりにレーザーポインターの装着が可能です。



安全操作

作業場から離れた場所からの遠隔操作が可能なので、現場での安全性を確保できます。万が一の緊急時には自動停止され、緊急停止ボタンにより強制終了が可能です。

稼働時間

バッテリーの動作時間は8時間で、1日の作業時間を十分カバーできます。

マーキング精度

マーキング誤差は平均で約20mmです。機械の移動速度を0.8～2.0m/secまで調整できるので、凹凸が多い場所では速度を調整して誤差を小さくすることができます。

※ 碎石盤などの凹凸があるところでは誤差が大きくなり、使用条件で精度は異なります。

出典:西尾レントオール（株）HPより

実績・事例

以下の工事において、自動マーキングロボット Tiny Surveyorによる床版切断ラインの自動マーキングを行いました。

- ・中日本高速道路（株）八王子支社
中央自動車道 日之城橋床版取替工事（山梨県）

